



JST 理事長 記者説明会

平成29年11月14日



科学技術振興機構



海外出張報告



科学技術振興機構

世界科学フォーラム(World Science Forum)概要

World Science Forum (WSF) は、完全招待制の国際科学フォーラム。1999年にブタペスト宣言を発出した世界科学会議を前身とする。2年に1度開催され、ブタペストとその他の都市で交互に開催される。

WSF2017

開催期間: 2017年11月7日(火)~11日(土)

開催場所: 死海(ヨルダン)

テーマ: Science for Peace(平和のための科学)

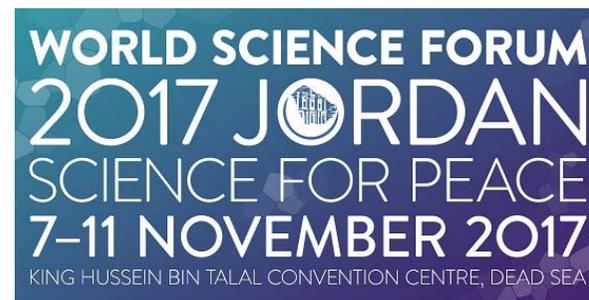
JST関係者のWSFにおける活動要旨

□ 濱口理事長による開幕プレナリーセッションの登壇

「平和の為の科学」について講演。日本を代表して科学技術の平和に対する寄与を、JST事業の貢献も含めて世界の科学コミュニティに伝える。

登壇者: エル・ハッサン・ビン・タラルヨルダン王国王子、
ナレディ・パンドール南ア科学技術大臣
マーク・ファーガンアイルランド政府主席科学顧問等

□ SDGs特別セッションをJST主催で開催



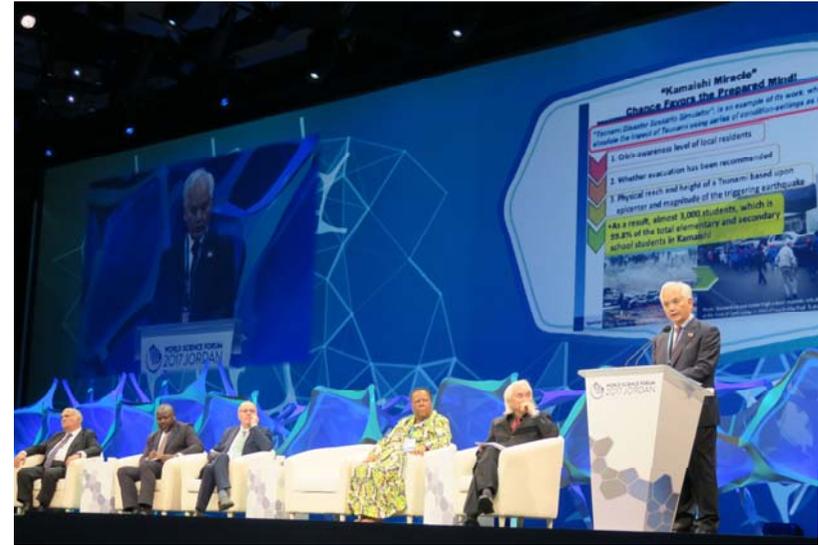
濱口理事長 開幕プレナリーセッション

世界科学フォーラム(ヨルダン)

World Science Forum - WSF



ヨルダン・スマイヤ王女と濱口理事長とのバイ会談



濱口理事長 開幕プレナリーセッション



濱口理事長(登壇者) ジェンダー関連セッション



小林国際部長(登壇者) SDGs関連セッション



世界科学館サミット (SCWS)2017 開催



科学技術振興機構

＜取材のご案内＞

世界科学館サミット2017 特別セッション「東京プロトコール」 ～SDGs達成に向けたアクションを発表～

日本科学未来館は、2017年11月15日(水)～17日(金)の3日間、アジアで初めてとなる「世界科学館サミット2017(SCWS2017)」を開催します。本サミットは3年に一度開かれる国際会議で、科学館の代表者をはじめ、教育関係者、政策関係者、企業関係者らが一同に会し、科学技術への市民の関わりについて議論し科学館の新たな役割について提言を行うものです。

初日に開催される特別セッションでは、SDGs達成に向けて世界の科学館代表者たちによって合意された行動指針「東京プロトコール」の重要性について、本サミットの国際組織委員会委員長である毛利が紹介します。また、世界各地の科学館代表者が、それぞれの地域で今後取り組んでいく課題を発表し、SDGsの達成に向け、世界の科学館がそれぞれどう貢献できるか議論します。

世界科学館サミット2017 特別セッション

開催日時：2017年11月15日(水) 17:45～18:45

会場：日本科学未来館

受付：17:15～ 日本科学未来館 1Fプレス受付

取材のお申し込みは、11月14日(火)15時までに

press@miraikan.jst.go.jp、03-3570-9151までご連絡ください。



「東京プロトコール」ポルトガルでの署名式の様子

東京プロトコール

～「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向け科学館が果たすべき役割～

東京プロトコール賛同者は、2015年に採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」について、

- 科学・技術・工学・数学(STEM)は、SDGsの課題の解決に不可欠であり、地域や文化を超えて例外なく必要とされていることを認識し、
- 市民による科学技術への参加と行動がSDGs達成のための重要な要素であることを強調し、
- 地球上のすべての生命体のために、SDGs達成に向けたローカルからグローバルにわたる世界中の組織の今日までの貢献や成果を支持し、
- SDGsが取り組もうとする課題に対して、世界中のコミュニティのあらゆる個人が行動を起こさなければならないことを考慮し、
- 今日の世界における、科学、技術、人口、経済のめまぐるしい変化が、SDGsを達成するための協働に対して、課題と新しい好機の内れれをももたらすことも認識し、
- 世界中の約3000の科学館が年間3億1000万人以上の来館者に影響を与え、市民がともにSDGs達成に取り組む一員となるための意識醸成を促しているということを認識し、
- 科学館が世の中の変化に敏感かつ迅速に反応し、積極的に行動を起こし、絶えず変化し続ける社会において果たすべき役割のヴィジョンを共有することを自信を持って表明し、

その達成に取り組むことを宣言します。

サイエンスアゴラ2017



科学技術振興機構

越境するサイエンスアゴラ2017



11/24(金)～26(日) 入場無料
東京お台場 テレコムセンタービル

アクセス:ゆりかもめ「テレコムセンター」駅直結
主催|国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)

【日程】2017年11月24日(金)～26日(日)
10:00～16:00 (初日のみ12:45～18:00)
【会場】テレコムセンタービル、シンボルプロムナード公園
(東京都江東区青海)
※新交通ゆりかもめ「テレコムセンター」駅直結

【主催】
国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)
【共催】 **11機関**
日本学術会議、国立研究開発法人理化学研究所、
国立研究開発法人産業技術総合研究所、東京臨海
副都心グループ、特定非営利活動法人 natural
science、国立大学法人東北大学災害科学国際研
究所、神戸市、福岡市科学館、特定非営利活動法
人産学連携推進機構、株式会社早川書房、セコム株
式会社

【協力】 **5機関**
株式会社フジテレビジョン、UDトーク、ユニティ・テクノロジーズ・
ジャパン合同会社、KIRIN、国立大学法人京都工芸繊維大学
KYOTO Design Lab[D-lab]

【後援】 **8機関**
内閣府、外務省、文部科学省、経済産業省、一般社団法人
日本経済団体連合会、一般社団法人東京臨海副都心まちづ
くり協議会、一般社団法人国立大学協会、日本私立大学団
体連合会

【パートナー】 (予定) **5機関**
米国科学振興協会 (AAAS)、中国科学技術協会
(CAST)、南アフリカ共和国科学技術省、ユーロサイエンス、
韓国科学創意振興財団 (KOFAC)

<http://www.jst.go.jp/csc/scienceagora/>

サイエンスアゴラとは？

サイエンスアゴラは、「あらゆる人に開かれた科学と社会をつなぐ広場」です。異なる分野・セクター・年代・国籍を越えた関係者をつなぎ、さまざまな人たちが多様な価値観を認め合いながら、対話・協働を通じて、これからの「社会とともにある科学」と「科学とともにある社会」の実現を目指します。

2006年より開始、2017年は第12回の開催になります。



サイエンスアゴラのビジョンと2017年のテーマ

ビジョン

科学とくらし ともに語り 紡ぐ未来

- 科学とくらし： 科学と（身近な）社会のこれからを
- ともに語り： 人と人が語り合う場をつくり
- 紡ぐ未来： 互いの考えを尊重して未来を創っていききたい

テーマ

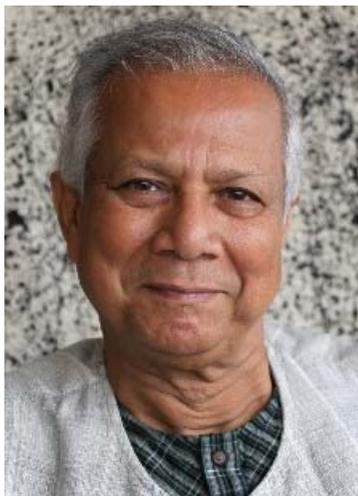
越境する

- 社会の新しい価値に気づき、現代の多様な問題を解決するためには
- ひとつの学問分野、立場、世代の知恵だけでは十分ではない
- 私たちひとりひとりが心豊かに生きていくために科学技術をどう取り入れていくのか、科学技術には何ができるのか
- 学問分野、立場、国、文化、世代の壁を越えてともに考える場としたい

サイエンスアゴラ2017のポイント

◆ 国際的な課題解決に向けた活動に焦点を当て、一人一人が未来社会への期待と取り組むべき課題を共有できる場に

- ノーベル平和賞受賞者ムハマド・ユヌス氏、インドネシア・ガジャ・マダ大学前学長のドウイコリタ・カルナワティ氏が登壇
 - 日本国内に留まらず世界的な視野で、「社会課題の解決に科学技術がどう応えることができるか」を議論
- 「持続可能な開発目標(SDGs)※」に取り組む企画をピックアップし、参加者間の対話を促進



重点テーマ
(キーノートセッション)



※「持続可能な開発のための2030アジェンダ」(2015年9月の国連サミットで採択)

サイエンスアゴラ2017 中高生おすすめ企画

11/24 (金)
11/25 (土)
11/26 (日)

ブース展示

科学オリンピックの問題に挑戦!

会場: 3階アトリウムエリア 対象: 中高生含む一般

科学オリンピックの試験問題を体験
経験者から問題解説あり

チャレンジした方に
素敵なプレゼント!

▼教科別スケジュール

| | 10:10~ 11:30 | 11:40~ 13:00 | 13:10~ 14:30 | 14:40~ 16:00 |
|-----------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 11/25 (土) | 化学 | 物理 | 地学 | 地理 |
| 11/26 (日) | 数学 | 生物学 | 情報 | |



<http://www.jst.go.jp/csc/scienceagora/program/booth/013/>

11/25 (土) 10:30-13:00 トークセッション

アジア×日本: 高校生×留学生×研究者トークセッション
“科学の力でアジアから未来を切り拓け!”

会場: 8階会議室B 対象: 中高生含む一般

研究者



井上 公氏

防災科学技術研究所
社会防災システム研究部門
主幹研究員



Moi Meng Ling

(モイ メンリン) 氏
長崎大学熱帯医学研究所
准教授

留学生



Elaine Mission
(エレイン ミッション) 氏

熊本大学 大学院自然科学研究科
博士後期課程在籍
文部科学省国費留学生



Tran Huu Dat
(チャン ダツ ヒュツ) 氏

帝京大学 大学院医学系研究科
博士後期課程在籍
文部科学省国費留学生



<http://www.jst.go.jp/csc/scienceagora/program/booth/138/>



11/25 (土)

14:15
|
15:45

トークセッション

高校生×イノベータートークセッション"Road to INNOVATION" ～JSTグローバルサイエンスキャンパス～

会場: 1階アゴラステージ 対象: 中高生含む一般

モデレーター



小川 悠氏

一般社団法人i.club 代表
理事

イノベーター



落合 陽一氏

筑波大学学長補佐/大阪芸術大学客員
教授/デジタルハリウッド大学客員教授/
CREST研究代表者



鈴木 健吾氏

株式会社ユーグレナ
取締役 研究開発担当



玉城 絵美氏

早稲田大学 准教授 /
JST さきがけ研究者 /
H2L 株式会社 創業者



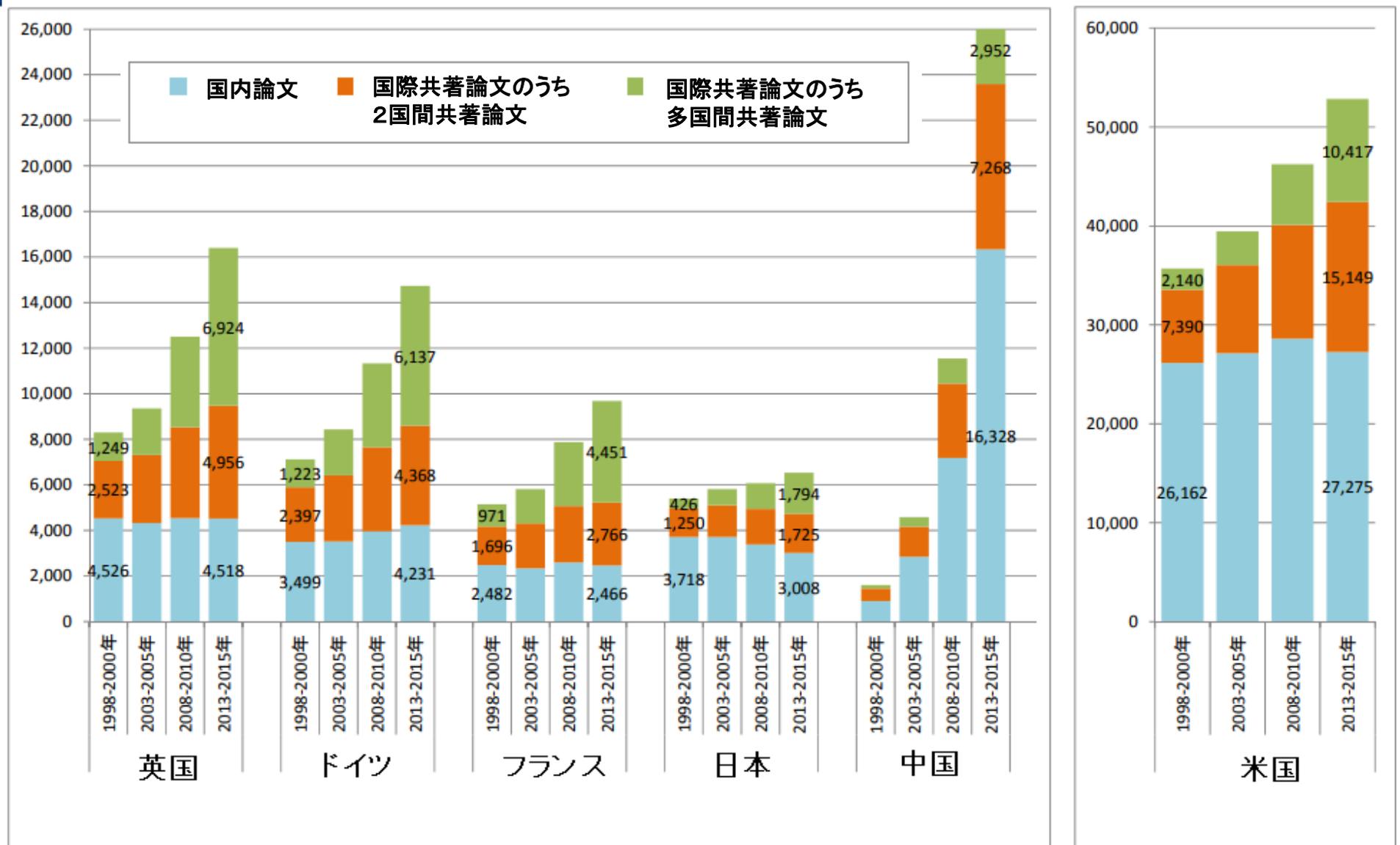
<http://www.jst.go.jp/csc/scienceagora/program/booth/104/>

CRESTにおける ANR(仏国立研究機構) との連携公募



科学技術振興機構

主要国のTOP10%論文における国際共著



出典: NISTEP 調査資料-262「科学研究のベンチマーキング2017ー論文分析でみる世界の研究活動の変化と日本の状況ー」(2017)をもとに、JSTが加工・作成。

ANRとの連携公募について

平成30年度のCREST公募において、ANRとの連携公募による日仏の共同研究の支援を実施予定。対象は以下の2研究領域。

「量子状態の高度な制御に基づく革新的量子技術基盤の創出」研究領域（荒川泰彦研究総括・東京大学センター長／教授）

「人間と情報環境の共生インタラクション基盤技術の創出と展開」（間瀬健二研究総括・名古屋大学教授）

連携公募のポイント

- 公募・選考に付随する煩雑な手続きを極力排除
 - FA間で新たなテーマ設定・調整は行わず、CREST研究領域のスコープに基づいた共同提案を募集。
 - 選考評価はそれぞれのプログラム毎に独立して実施。双方共に評価が良ければ採択。JSTは日本の研究機関を、ANRは仏研究機関を支援
- 近日、正式アナウンス予定



2017年10月には京都においてフレデリック・ヴィダル高等教育・研究・イノベーション大臣と本協力について懇談

ANR（国立研究機構）とは

- L'Agence nationale de la recherche (The French National Research Agency; 国立研究機構)
- フランスで初の独立したファンディング・エージェンシーとして 2005年に設立された。
- 高等教育・研究・イノベーション省の管轄下に、自然科学・工学から人文・社会科学までの全分野に対して競争的資金を配分するファンディング機関。
- 研究者の好奇心に基づいた研究およびミッションに基づいた研究に資金を配分している。
- なお、2014年度より全ての一般プログラムが社会的課題に応じて整理される形になり、よりミッションに基づいた研究資金配分機関としての性格を強めている。



トピックス



科学技術振興機構

宇宙線の観測（ミュオンラジオグラフィ）によりエジプト・クフ王のピラミッドの中心部に未知の巨大空間を発見！

2017年11月2日付Natureオンライン版に掲載

本発見に活用された観測技術の開発をJSTプログラムで支援

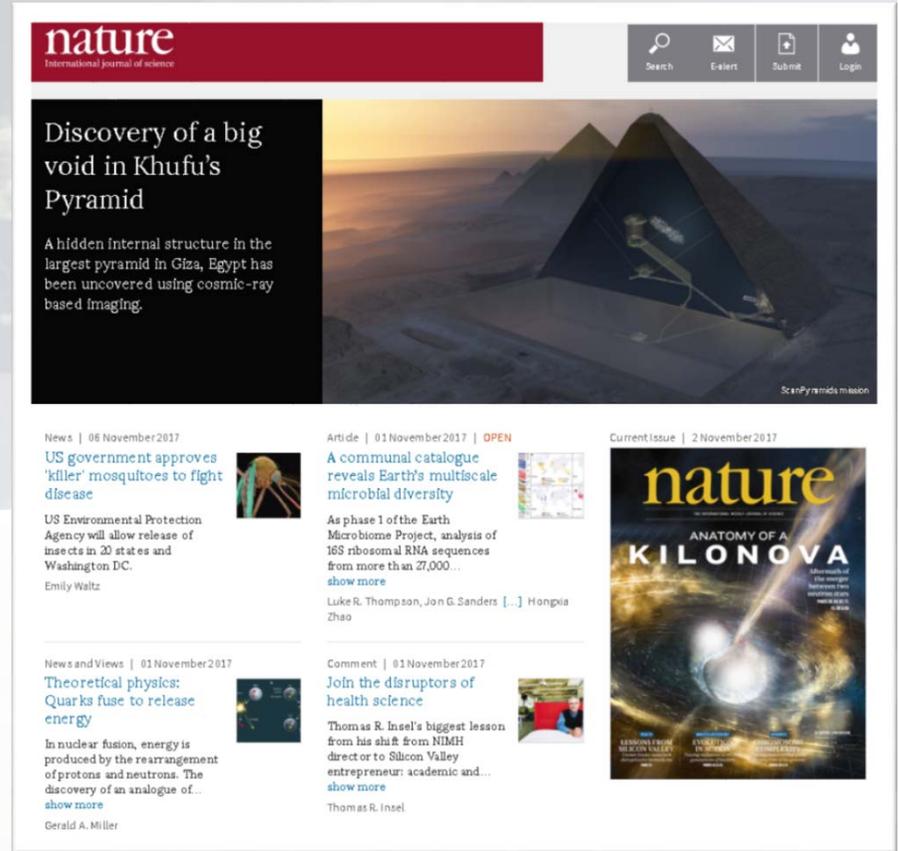
先端計測



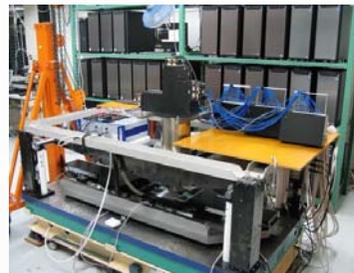
先端計測分析技術・機器開発プログラム
要素技術タイプ(H23~H27)
先端機器開発タイプ(H28~H32)

チームリーダー：中村 光廣
名古屋大学
未来材料・システム研究所
高度計測技術実践センター 教授

※ 森島邦博特任助教(NatureのFirst Author)はチームメンバー



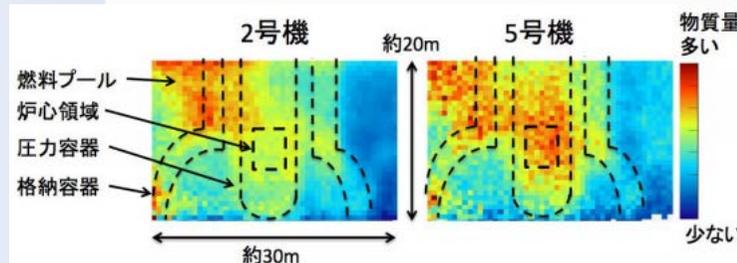
写真フィルムにあたる原子核乾板の生産技術の確立や、ミュオン自動読取装置の高速化を実現。現在、さらなる高精度化・システム化に向けて開発を推進中。



超高速自動飛跡読取装置

～新しい社会インフラ点検技術へ～

- ・福島第一原発の原子炉
- ・火山内部の観測
- ・地下空洞調査
- ・ダム・盛土などの大型建造物内部の測定など



福島第一原発のミュオン粒子を用いた原子核乾板による透視結果



火山内部の観測への展開も



ゲスト講演



科学技術振興機構

理事長記者説明会 講演者のご紹介

東原 和成（東京大学 教授）



- ERATO 東原 化学感覚シグナルプロジェクト（H24～）研究総括
- 12/13～5/21 **日本科学未来館メディアラボ**で東原先生の研究成果の展示実施（別途配付プレスリリース参照）。
- **未来社会創造事業（探索加速型）**「世界一の安全・安心社会の実現」領域（運営統括：田中健一）で、東原先生の研究課題**「香りの機能拡張によるヒューメインな社会の実現」**が採択されました。（10月31日付プレスリリースで発表）